



—この  
シチュエーション—



覚えてる…

これは  
「私の断罪の場」—

「アリスは  
この後の  
アイリスの未来を  
知っている」



あのゲームで  
見たそのままの  
世界…

この場を  
うまく  
切り抜けなければ—



そしてユーリの  
ライバルである  
「私」

ヒロイン「ユーリ」と  
エド様をはじめとした  
攻略対象者達

……アイリス





ドルツセン



このような  
か弱い女を力任せに  
取り押さえるのは

いかなものかと  
思います



…貴方が



痛いから  
放して下さい

…か弱き者の為の  
騎士団の長を務める  
ドルーナ様のご子息である貴方が



貴方が  
か弱い子女？

冗談も  
休み休み  
言っ下さい

ペルン…



…私は確かに

ユーリ・ノイヤー  
男爵令嬢様に  
嫌がらせを  
しましたわ

認めましょう

随分あっさりと  
認めるんだな？

…そうですね



…以後

私は皆様に  
お会いすることは  
ないでしょうから

この場を  
お借りして  
挨拶させて  
いただきますわ

皆様

今まで  
ありがとうございました

同じ学生として  
この学園に  
通ったこと

感謝に  
堪えません

皆様に良くして  
いただいたこと



去る前に  
ユーリに謝れ



ユー



…謝り  
ませんわ



私は私の  
矜持に従って  
行いましたもの

たとえ行き着く  
先がこの身の破滅で  
あろうとも

私は私を  
曲げません



それでは  
御機嫌よう

アイリス  
待て…!





ごめんな  
御機嫌よう

ですから  
謝りませんし

これ以上  
私は貴方がたに  
何も奪わせません





今の「私」は



——「私」  
アイリスの記憶が  
ミックスされた状態——



日本という国の  
前世の「ワタシ」と

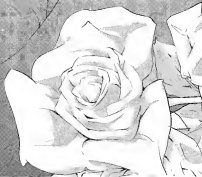


私の名前はアイリス・ラーナ・アルメリア

このタスメリア王国の中でも  
王家に次ぐほど血筋がいい  
公爵令嬢

じかし

エドワードとの  
婚約を破棄された  
いま



学園を後に  
したあとは

自宅謹慎  
からの勘当

そして

タリル教の  
修道女としての  
教会幽閉だ――

それだけは  
避けたい

今までは

「ラタシ」が知っている  
物語をなぞって  
きただけ……



茶番は  
終わり……

あとは  
お父様との  
交渉次第ね……





お嬢様……っ！









ターニャ

ありがとう



たとえ  
王族の方だろうと  
お嬢様を裏切った  
エドワード様を

決して  
許すことは  
ありませんし

旦那様が  
なんと  
仰っても



私は  
幸せものね



私はお嬢様の  
お味方で  
ございます



備越ながら  
お嬢様

私はアルメリア  
公爵家に仕えている  
のではなく

お嬢様に  
お仕えさせて  
いただいている  
のだと思って  
おります



私はあの時  
死ぬ筈でした

それを救って  
くださったのは  
お嬢様です

私の命は  
お嬢様のもの

私が貴方様の  
お側を離れる時は

私の命が  
無くなる時か…

お嬢様が  
私をいらないと  
判断したときです



…貴方の  
気持ち  
はよく  
分かったわ

だけど  
ターニャ

幸せは決して  
一つでは  
無いと思うの

…忘れないでね

…お嬢様が  
そう仰るので  
あれば

でもお嬢様

ライルや  
レーメ…

私と同じ  
立場の者も

同じ思いで  
いるということを  
どうか心に留め置いて  
ください





⇒ 次回更新は 2月 16日(火)